

URAが生み出す価値とは

2019.9.4

大阪大学 経営企画オフィス

URA 高野

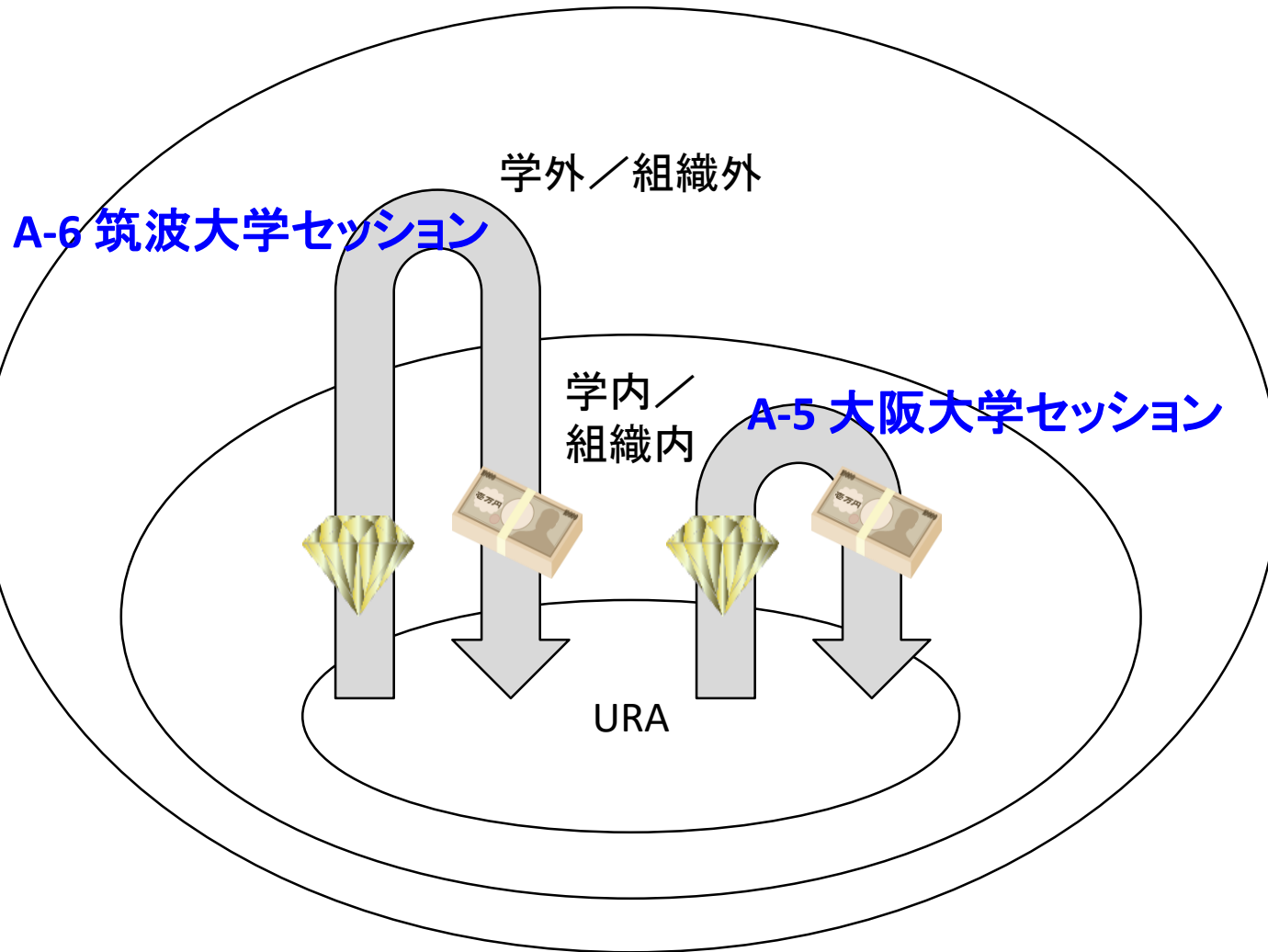
## 本セッションの背景と狙い

- URAはどのような価値を生み出してきたか
- それは期待を超えるものであったか
- URA自身、本当の価値(期待された価値、提供した価値)に気づいていない場合も多いのではないか
- 「URAが生み出す価値」を考えることはURA機能の高度化の為にも重要ではないか



- URAの価値をその雇用側、被雇用側双方の観点から意見交換を実施
- セッションに参加頂いている方々全員と意見交換を実施
- URAの価値を再発見したい

# 誰に対する価値提供か —筑波大学セッションとの関連—



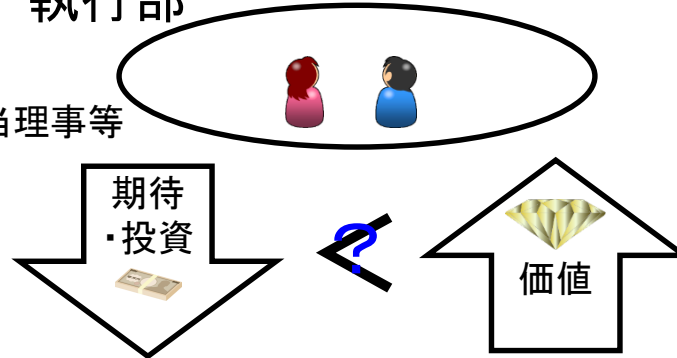
B202	B101
A-4 URA 活動の 高次元化を実現 する戦略的活動 アーカイブ Middle	D-1 ポストアワードが生ま だすものとは ～伴走型支援と研究 力・産学連携強化～ All
G-2 海外ファンド機関と のパートナーシップに よる若手研究者の 国際化支援 Middle/ Advance	A-5 URA が生み出す 価値とは All
	Z-5 (ランチョン) ジュプリンガー・ ネイチャー All
A-6 ポスト「研究大学 強化推進事業」 時代の URA 組織 連携 Middle/ Advance	D-2 新たな学際研究 を導く ポストアワード力 All

# 本セッションでの議論イメージ

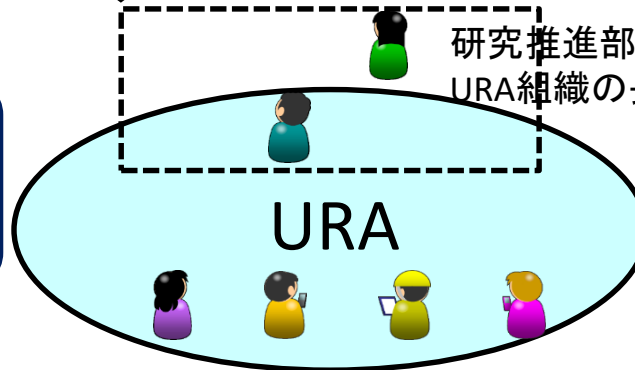
〇〇大学

執行部

学長  
研究担当理事等



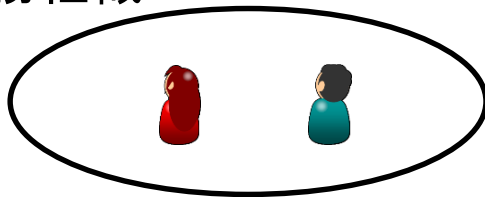
研究推進部課長  
URA組織の長



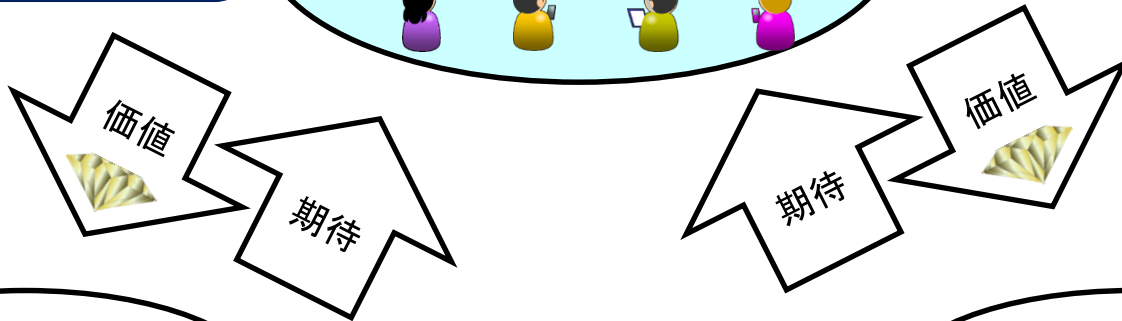
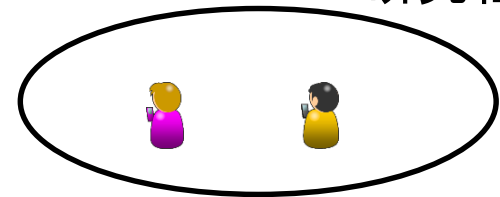
URA

•URAは何を期待されているか  
•どのような価値を提供しているか

事務組織



研究組織

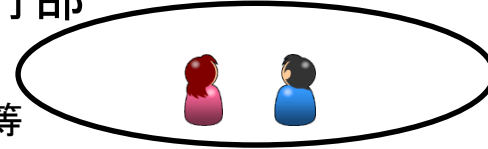


# 本セッションでの議論イメージ

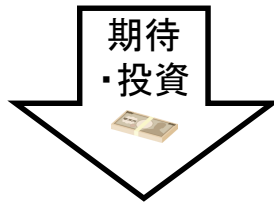
〇〇大学

執行部

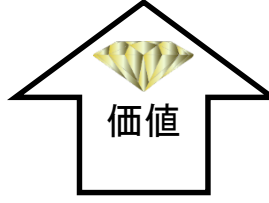
学長  
研究担当理事等



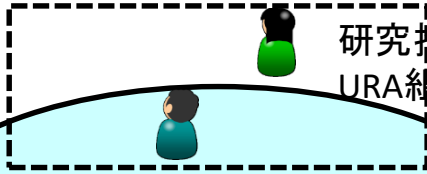
期待  
・投資



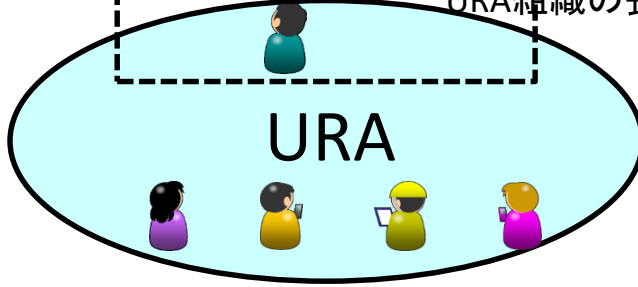
価値



研究推進部課長  
URA組織の長



URA



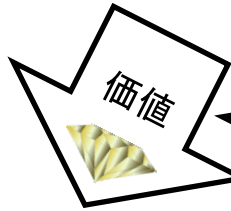
- URAは何を期待されているか
- どのような価値を提供しているか

福井大学 岩井 善郎 様  
産学官連携本部 特命教授  
元 福井大学研究担当理事

信州大学 杉原伸宏 様  
学術研究支援本部長  
学長補佐・教授

広島大学 小左古 学 様  
研究企画室長

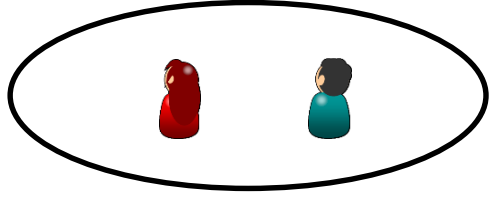
価値



期待



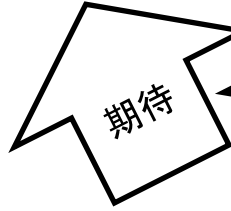
事務組織



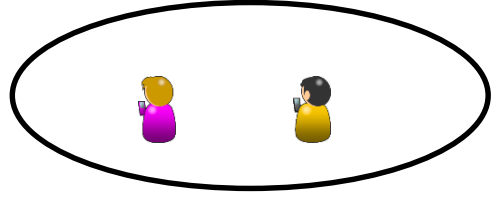
価値



期待



研究組織



# URAとは何をする人か(何が期待されているか)

大阪大学 共創推進部 社学共創課 社学共創係長 花岡氏の考え

URA職と事務職員の連携モデル 2017年度版から作成

URAへの期待	内容	イメージ図
<p><b>期待1:</b> 事務職員の性質(※)上、支援に踏み込めていない課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究戦略推進支援</li> <li>プレアワード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>URA職が新規事業を開拓し、事務職員とURA職が定型業務化し、URA職は新たな課題に取り組む。</li> <li>協働の必要性 定型業務化、業務の移管、リソースの創出方法などで協働が必要。</li> </ul>	
<p><b>期待2:</b> 研究者視点からの助言、情報提供、協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポストアワード</li> <li>関連専門業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>URA職と事務職員が提案・検討・実施の各段階で協働する。</li> <li>協働の必要性 URA職、事務職員が共通目標を共有しながら、各担当業務について、意見を出し合うため、協働が必要。</li> </ul>	

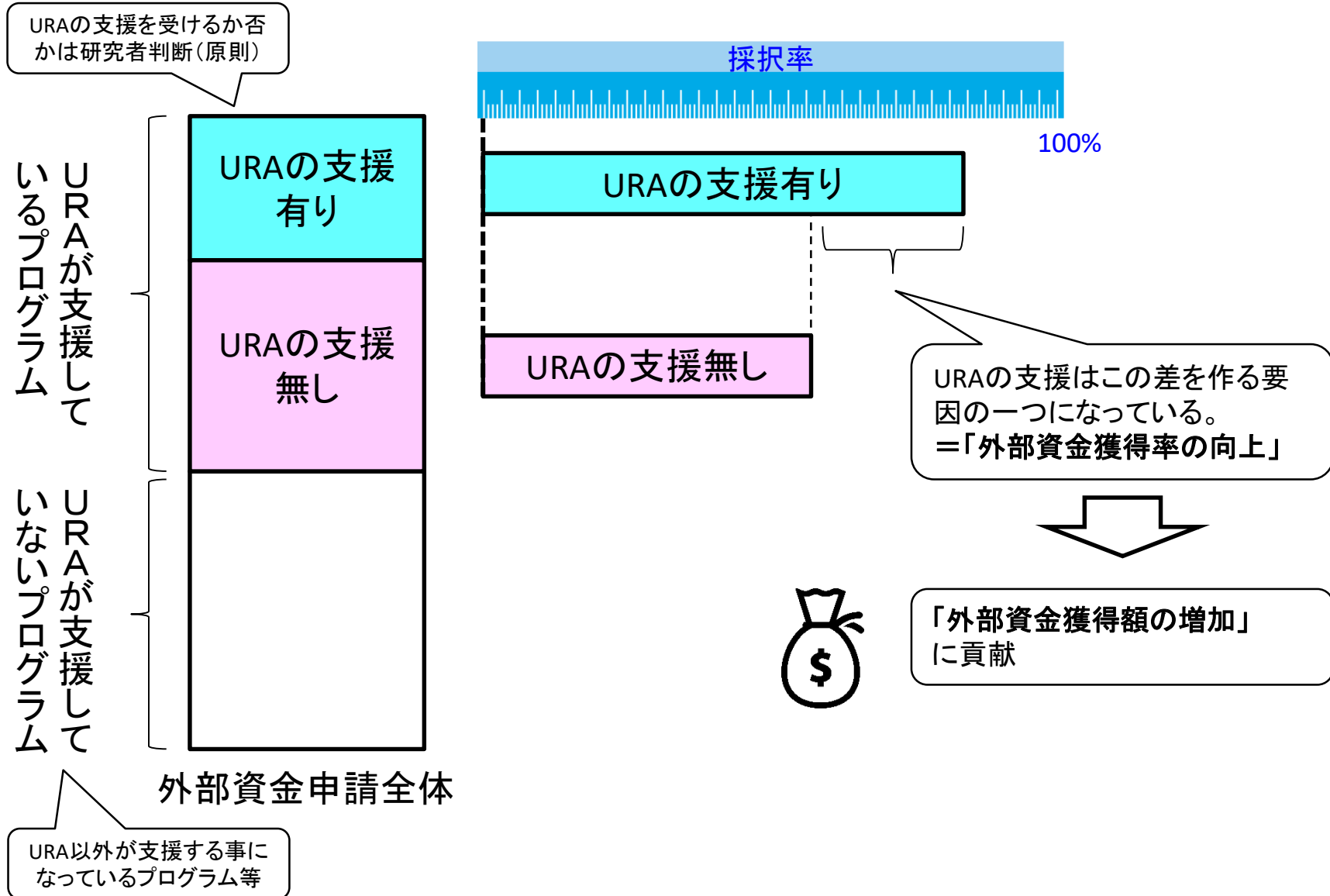
(※)事務職員の性質・・・定期的な人事異動、ラインでの業務体制など。

## 価値提示：大阪大学の場合（1／2）

	非お金的	お金的
定量的効果	<ul style="list-style-type: none"><li>• 執行部への提案回数</li><li>• 部局からの依頼対応回数</li><li>• 申請書作成支援実施数</li><li>• 外部資金獲得率の向上 (URAの支援有無比較)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 外部資金獲得額の増加</li></ul>
非定量的効果	<ul style="list-style-type: none"><li>• 良好な〇〇事業の事後評価</li><li>• 研究者からの好意的な評判</li><li>• URA(ならでは?)業務の実施</li></ul>	

# 価値提示: 大阪大学の場合 (2/2)

## — 外部資金獲得支援の結果 —





# 論点

- ✓ URAとは何をする人か(何が期待されているか)
- ✓ URA配置効果の可視化は必要か、どのように行うか
  - ✓ 定性的
  - ✓ 定量的
    - ✓ 非お金的
    - ✓ お金的



- 講師からの発表を理解する
- 参加者の考え方を伺う
- みんなで議論する

# セッションの構成

- ・10:40～10:50  
セッションの趣旨説明(オーガナイザー)
  
- ・10:50～11:05  
講演1 信州大学 杉原 伸宏 様
  
- ・11:05～11:20  
講演2 広島大学 小左古 学 様
  
- ・11:20～11:35  
講演3 福井大学 岩井 善郎 様
  
- ・11:35～12:10
  - ・ディスカッション
    - ・オーガナイザーからの質問1、フロアとのディスカッション
      - ・URAとは何をする人か(何が期待されているか)
    - ・オーガナイザーからの質問2、フロアとのディスカッション
      - ・URA配置効果の可視化は必要か、どのように行うか
    - ・フロアからの質問(1, 2)
  - ・まとめ(オーガナイザー)

各講師からの講演1, 2, 3の後に時間があれば1, 2の質問を受けたいと思います。